

期間  約定日  受渡日

2026/05/01 から 2026/05/01

今日 今週 今月 今年

照会

商品	実現損益(税引前)	利益金額	損失金額
国内株式(信用) >	-14,020円	20,250円	-34,270円
合計	-14,020円	20,250円	-34,270円

2026.5.1 地合い



転換点でショートして25日線で下げ止まったからいったん利確後、そこからまた下げそうだからショートする。それで下げなかったから、損切ラインに到達損切。ここまではいいけど、そこから複数回ショート・損切を繰り返していた。結果横横になってアルゴに狩られ続ける箇所が散見される。良い位置でショートして利確したら、再エントリーは別の根拠がそろってからという風にしないと一度否定されたトレンドを何回も試しても損切溜まるだけ

トレンドラインにタッチしたからエントリー。というそれだけの理由でエントリーしないようにする。

指数の動きがエントリーしようとする方向に行っているかどうか、ショートなら抵抗線とトレンドラインがぶつかるなど、複数根拠が重なる場所でのエントリーのみとする。今のまま、薄い根拠だけのエントリーを続けていると良いことにならない。

また、アルゴの逆指値狩りに狩られないように、逆指値が溜まっていると想定してエントリーポイントをずらすことも行う。

これはその日の状況によって位置は微調整が必要。素直に反発する日ならその位置で良いし、貫かれるなど感じたら買いであれば、どれくらい貫かれたか確認して少しづつエントリーポイントを下げていく。指値刺さらなくても機会損失のみ。実損失ではない。なんかかみ合わないと感じるのは、狩られてるか、エントリーポイントの根拠が薄くて反発するタイミングじゃない時にエントリーしてるとき。